

定時総会
理事

新理事長に雫石隆子氏



公益社団法人
宮城県芸術協会
(郵便番号 980-0802)
仙台市青葉区二日町16-1
二日町東急ビル5-B
電話 (022) 261-7055
FAX (022) 214-5184
E-mail:miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp
発行者 雫石隆子

昭和 40 年 1 月創刊された「はなやま」の題号は、芸術協会の創設が、昭和 39 年 5 月 9 日に宮城県花山村（現栗原市花山）の湖畔亭で開かれた会合で決まったことにちなんで付けられました。

平成 30 年度の宮城県芸術協会定時総会は 6 月 3 日、仙台市青葉区の市福祉プラザで開会。総会での新役員承認を受け、閉会後開かれた理事会で新理事長に雫石隆子氏が選出された。

理事長選挙は、新任 3 氏を含めた理事 17 人を対象に実施。1 回の投票で雫石氏を 11 代目、女性初の理事長に選んだ。執行理事は 2 回の決選投票を含め 3 回の投票の末、5 氏を決めた。雫石氏は、5 氏を決めた。雫石氏は、5 氏を決めた。雫石氏は、5 氏を決めた。

石理事長は「選出は」想定外の事態だが、重責を全うしたい」と決意を述べた。

理事会に先立ち開かれた総会では、司会の執行理事が、総会成立の定足数を満たしていることを確認。大場尚文理事長のあいさつに続いて、文芸部の金澤孝一会員を議長に議事を進めた。

まず、報告として「平成 30 年度事業計画及び収支予算について」を各担当の執行理事が説明。定款に基づき、前年度末の理事会で承認され、既に事業が執行されている等の説明があった。

議案は第 1 号「平成 29 年度事業報告及び収支決算の承認について」と第 2 号「役員を選任について」の 2 件。第 1 号議案では執行理事が内容を説明し、監事がいずれも適正に執行されている旨の監査報告を行った。質疑、採決に移り、第 2 号議案の役員選任とともに、満場一致で可決・承認された。

総会後の第 2 回理事会で理事長に選任されました。青天の霹靂、想定外とどのような言葉も射ない程の驚きではありましたが、この大任を一步一歩誠実に務めて参りたいと思います。

これまで 4 人の理事長にご指導を賜り、常任理事会のメンバーとして協働し、学ばせていただきました。前理事長には創設時の原点を踏まえることや、芸術協会の存在価値を再認識させられました。設立から半世紀を超えて、社会の変化と共に見失いがちになったもの、宮城県の芸術文化の振興、その担い手としての誇りを堅持致します。

創設 60 年に向けて組織基盤を確固とするために一定数の会員を保持することが求められます。高齢化の進展が懸念材料になります。部門の拡大や若い

事業刷新目指し 共に前へ！



宮城県芸術協会理事長
雫石隆子

会費を招集するための方策を検討して参ります。また、財務基盤の拡充に賛助会員の貢献は大きく、当協会の活動の支えになっております。これは財務基盤の強化に資するだけでなく、芸術協会の活動を市民にアピールする窓口にもなるのです。賛助会員の皆さまに継続的なご支援をいただく努力を続けて参ります。

当協会の主たる事業は宮城県芸術祭の開催で、昨年から共通テーマとして「結い」を掲げました。マスメディアを通じて芸術祭の周知を図る手段でもありますが、おおむね好評で震災を体験した方々へのメッセージ性の強いテーマとして、今年も展開致します。

事業の刷新も目指し、会員の皆さま、スタッフ一同共に前へ！進んで参る所存です。

吉田 利弘 執行理事 (総括・絵画部) 協会の基盤強化に努力

当協会は 12 部門、2000 人を超える会員を擁する大所帯。各領域においてそれぞれの個性ある芸術文化力が発揮され、さらに発展できる協会の基盤づくりに努めていきたい。

本年度第 2 回理事会（6 月 3 日）で新執行理事が選出された。5 人のうち 3 人が新任というフレッシュな陣容。栗石隆子理事長を支える副理事長格の総括と事業、財務の各担当執行理事に決意と抱負を聞いた。いずれも役割、課題を真正面から受け止め、責務への自覚も十分。協会創設から 55 年目を迎え、新執行部を中心に「ゴーゴー」、前進あるのみだ。

燃える
新執行理事
力強く
決意と抱負

本年度第 2 回理事会（6 月 3 日）で新執行理事が選出された。

佐々木 光一 執行理事 (事業・写真部) 宮城発の芸術文化を

仙台藩が芸術文化の中心的存在だった時代がある。大震災を経験し、芸術の価値を再認識した今こそ、この地から発信する芸術文化を开花させる時期。そのお役に立ちたい。

外部理事に聞く①

6 月 3 日の定時総会で新たな役員体制が承認された。外部理事として（株）河北新報社代表取締役社長の一力雅彦氏（58）、カメイ（株）代表取締役社長の亀井文行氏（56）に就任いただいた。それぞれ文化芸術の振興に尽力されており、心強い「援軍」。お二人は当協会への強い期待感とともに連携を重視する姿勢を鮮明にした。2号に分けて、インタビューを掲載する。

理事就任の抱負を

宮城県芸術協会のさらなる発展に貢献できればと思っております。芸協と河北新報社は地域の芸術文化の振興という共通の目的意識で歩んできており、微力ながらその延長線上で、後押ししていきたいと考えています。

佐藤 皖山 執行理事 (佐藤衆治郎 事業・邦楽部) 伝統文化の継承に力

わが国にはたくさんの伝統文化がある。各時代の人々が研さんを重ねてバトンタッチしてくれた賜物だ。引き継いだ私たちも、日々精進し、悠久の一瞬を謳歌し、未来につなぎたい。

具体的には

組織の発展を図る上で、県民・市民との交流をいかに拡大するかが重要となります。情報発信力の強化が欠かせず、取り組みを紙面でも積極的に紹介していくつもりです。人材発掘、人材育成の面でも協力していきたい。



一力雅彦氏
河北新報社
代表取締役社長

当協会の使命、課題について、どうお考えですか。

社も関わった設立当初の目的でもある芸術祭の成功に万全を期すことでしょうか。ただ、将来にわたって芸術文化の振興、発展に寄与していくためにはマン

菅原 宗初 執行理事 (菅原初枝 財務・茶道部) 安定的な運営にまい進

若手芸術家の発掘に努めるとともに、会員が日々、充実した活動を重ねていけるよう、基盤となる財政の健全化に向けて、安定的な協会運営に精いっぱい取り組んで参りたい。

ネリを避け、パワーアップを図ることが欠かせません。順次、世代交代を進めながら、芸術の裾野をもっと広げ、組織の総合力を発揮する大胆な企画なども検討してみたいです。

文化を地域づくりに生かす視点も大事になりそうです。

交流拡大へ 連携を強化

震災時における「心の復興」で芸術文化が大きな支えとなりました。外国人を含めた交流の拡大に向けて、文化は地域の輝きを増すけん引役にもなり得ます。芸術文化の多面的機能に着目すれば、活動がもっと評価され、関心が高まってい

渡部 勝彦 執行理事 (財務・洋楽部) 重要課題に積極対応

協会に対する外部評価の向上を念頭に置きつつ、会員減少への新たな対策や賛助会員増加への取り組み、さらには外部資金獲得への挑戦等、重要課題に積極的に取り組んでいきたい。

そのための方策は

公募展等にも通じますが、若い人などにもっと参加してもらうよう、知恵を尽くすべきだと思います。構成する芸術分野の拡大や指導者の育成も図る必要があります。芸協が担う役割の一つでしょう。

芸協、会員に望むこと、エールを。

芸術文化の振興を図るには表見者、鑑賞者、支える人のパランスが大事。取り巻く環境が変わっているのですから、明確なビジョンを打ち出し、地域の魅力づくりにつながるとの構えで取り組んでほしい。情報発信、芸術に対する親しみと理解を深める場づくりが重要で、メディアとの関係も深まります。連携を強め、ともに目的の達成にまい進していきたい。

復興にアートの力を 津田アナが総会記念講演

定時総会恒例の記念講演として、平成30年度は講師にNHKアナウンサーの津田喜章氏を招



講演する津田アナウンサー

いた。演題は「被災地からの声〜震災8年目の真実〜」。東日本大震災発生直後から続く番組の丁寧な取材に基づいて、まだまだ途上にある、というより時の流れとともに被災者の闇をいよいよ深くしている側面すらある心の復興に「アートの力」を生かすよう呼び掛けた。

総会に先立ち6月3日、市福祉プラザであった講演は約1時間。初めにパソコンを使って放送した番組の一部を流し、被災

者の「今」をリアルに紹介しつつ、大災害と芸術文化の関わりという会員に興味深い内容にまとめた。

津田氏は開始当初から番組のキャスターを担当。被災者と視聴者をつなぐ話術のプロが説く現状報告は分かりやすく説得力も十分で、芸術の取り組みに強い示唆を与えた。同時に復興に向けて芸術の役割が大きいことを訴え、会員らを元気づける講演ともなった。

講演要旨 仮設住宅の現状、災害公営住宅の入居状況などから、震災復興は一区切りついたように見受けられる。しかし、ハード面の整備が進む一方、人

間の心のありようは別問題として、被災各地の事例に共通したものが現れている。被災者の自力再建にも課題はあり、「7年たったのにまだ言っている」といった風評により、心の余裕をなくし、公営住宅では隣近所とのつながりが消えて、互いに慰め合う場がなく、胸の内を抑え込んでいるのが実情。これらは時間がたつほどつらく重たい。孤独な生活の中で、ウグイスの鳴き声を詩に表し、曲を付けCD化したことで、気持ちが大きく回復した事例もある。自分を変えることさえできるアートの力は大きい。芸術に何ができるか、考えてほしい。

栗石理事長、芸協をPR FM仙台の番組に出演

栗石隆子理事長が7月9日、エフエム仙台の看板番組の一つ「Hope for MIYAGI」に出演し、芸協の存在や取り組み等を県民・市民にアピールした。

毎週月曜日正午からの25分番組。東日本大震災の発生から1年後の2012年3月、伝え続けることを主眼に復興応援プロジェクト「Hope for MIYAGI」を立ち上げ、被災地の「今」を発信し続けている。

理事長は人気の石垣のりこアナウンサーとの掛け合いで、芸協の歩みや芸協としての震災時の対応を振り返りつつ、韓国・大邱との芸術文化交流、メイン事業の芸術祭などの取り組みを紹介。震災後、折々の思いを託した専門の自作の川柳も披露するなど、震災復興番組に芸術の彩りを添えた。

芸協を広く深く知ってもらうため、活字や放送メディアへの露出は極めて有効。今後も機会を創出を図りたい。

大場氏が名誉会員 3氏が参事に

6月3日開催された第2回理事会では、名誉会員と参事の推薦に関する議案が審議された。法人運営規程第7条1項に基づき、今回理事長を退任した大場尚文前理事長（絵画部）が理事会から推薦を受け、名誉会員に就任した。

また、第8条第2項の規程に基づき、これまで理事として芸協の運営に貢献した3名の方々が理事会から推薦を受け、参事に就任した（敬称略）。

私達は芸術協会を応援します
新賛助会員
(団体)

◇株式会社五葉商事
代表取締役 鈴木 せつ子 様

◇株式会社清月記
代表取締役 菅原 裕典 様

◇株式会社ル・プロジェ
代表取締役 山田 洋一郎 様

◇宮城中央ヤクルト販売株式会社
代表取締役 永富 淳次 様

◇クリエイトプランニング株式会社
代表取締役 佐野 勝利 様

◇株式会社オカムラ仙台支店
支店長 宮本 純雄 様

◇株式会社サンエーテック
代表取締役 水間 静夫 様

◇M2メディアカル株式会社
代表取締役 九良賀野 弘久 様

◇株式会社藤崎
代表取締役 藤崎 三郎助 様

◇杜の都信用金庫
理事長 星 倫市 様

◇正和工業株式会社
代表取締役 中辻 國郎 様

(個人)
◇川上 浩 様

◇菊田 潔 様

◇丹野 光明 様

【茶道部】星千丈

新入会員

【洋楽部】都築紘子 〓 仙台市宮城野区【邦楽部】三曲・佐藤将山(圭将) 〓 登米市、松浦井山(孝介) 〓 大崎市【茶道部】煎茶道三彩流・遠藤松苑(洋子) 〓 仙台市泉区

新運営委員



舞台を華やかに彩った「元禄風花見踊」

韓国大邱との芸術交流事業 22回の歴史を刻み 仙台で万感のフィナーレ!



観客を魅了した「伽耶琴&奚琴三重奏」

当協会と韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会による芸術交流の集大成となる事業が7月10日、仙台市青葉区の日立システムズホール仙台シアターホールで開かれた。会場は550人近い市民らでほぼ満席。珠玉の舞台に酔いしれた。

1995年に始まった交流事業。2001年はSARS、11年は東日本大震災のため中止を余儀なくされたが、開催を重ねて22回目。毎年、相互に訪問し合う形の交流は、今年で幕を閉じるだけに、双方ともプログラムの選定、準備に「半端ない」思いを込めた。

フィナーレのタイトルは「日本と韓国の芸術文化の交流」22年間の大邱国際交流を祝して

「」。演目は当協会側が第1部、茶道、三曲、華道による「茶の湯音頭」、日本舞踊、長唄による「元禄風花見踊」、大邱側が第2部、韓国国楽の「韓国舞踊」「伽耶琴&奚琴三重奏」、第3部「韓国声楽家によるオペラガラ・コンサート」で、技量の確かな出演者ばかり。最後は舞台と観客が一体となった「アラン」の大合唱で、華やかでレベルの高い公演を締めくくった。

当協会は、大邱訪問団へのもてなしを尽くし、11日には青葉区のパレスへいあんで、懇親会を開いた。関係者ら約70人が出席。雫石隆子理事長、大邱芸術文化団体総連合の金鐘成会長が友情の深さに感謝の言葉を述べた。公演にも出席した駐仙台大韓民国総領事館の朴容民総領事は感激した面持ちで、交流の糸の継続に期待感を示した。日韓の楽器解説や合同演奏、舞踊部指導による全員参加の盆踊りも実施、宴は大いに盛り上がった。

絵画・写真合同展が始まった交流は音楽、工芸、茶道、書道など多方面に及び、相互の啓発と双方の市民らに鑑賞機会を提供してきた。交流の成果を今後につなげる知恵が求められる。

**各県の助成、隔たり大きく
芸文協総会で浮き彫り**

当協会が加盟する東北・北海道芸術文化団体協議会は6月14日、福島市のホテルで平成30年度総会を開いた。

7道県の団体トップらが出席。福島県芸術文化団体連合会会長



野だての饗宴、笑顔交錯
第22回杜の都大茶会



新緑の会津、絵心躍る
2018スケッチ研修

を会長に選出した後、29年度事業報告並びに収支決算報告・監査報告、30年度事業計画及び収支予算(案)を説明、承認した。

情報交換は当協会提案の「県等からの助成について」。各県知事の熱意の違いを映す形で支援の隔たりが浮き彫りになった。

当協会と河北新報社が主催する第22回杜の都大茶会が5月26、27の両日、新緑の勾当台公園(仙台市青葉区)で開かれた。

伝統文化の茶の湯に気軽に親しむ機会が、初夏の杜の都を彩る風物詩としてすっかり定着。五月晴れの野だて日和に恵まれ、昨年並みの8842人が茶席を利用した。年配者に交じり、若者らの姿も見られ、裾野の広がりを印象付けた。

「形と色で再発見」をテーマに2018絵画部スケッチ研修会が5月26、27の両日、会津若松市と裏磐梯高原で行われた。

テーマは戊辰戦争から150年の節目に加えて、定番的な研修先を踏まえて設定した。両日ともまたとない写生日和。参加は15人とどまり、少々、寂しい研修となったが、好天の後押しも受けて、各景観ポイントでのスケッチに絵心を躍らせた。

県芸術祭、準備は着々 特別企画に高まる期待

当協会を中心に宮城県、仙台市、河北新報社など7団体共催による「第55回宮城県芸術祭」の準備が着々と進んでいる。既に共催団体による県芸術祭委員会で、事業計画や収支予算を正式に決定。最大の呼び物となる特別企画の内容も固まり、参加・出演する団体間の調整作業も大詰めを迎えている。



特別企画について議論する実行委員会の面々

芸協が強みを発揮するのは各々が協調、連携したスペシャルイベント。昨年度、統一テーマ「結い」を掲げ実施した開幕の催しを深化、より洗練させた。タイトルは特別企画「結いⅡ 過去・現代・未来を結ぶ」。9月30日(日)、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアで、芸協の総合力の高さを見せつける。3部構成。復興途上を強く意識し、第1部「東日本大震災への鎮魂」を導入部に、写真部と邦楽(三曲)が共演し、第2部は総合芸術「茶の世界」を切り口に茶道、写真、工芸、絵画、彫刻、洋楽の各部がコラボ。第3部「西洋音楽」でそれぞれ副題を描き切る。

日増しに高まる本番モード。開幕が待ち遠しい。

第1回部長会議開催

7月6日、芸協会議室で第1回部長会議が行われた。主な議事は「第55回宮城県芸術祭について」、「会員と賛助会員の拡大

について」。芸術祭実行委員会を兼ねており、各部に詳細の説明と確認が行われた。次回の部長会議では各部に会員拡大についてのアイデアや意見を求める。

文学散歩

参加者募集

「浜通りの現在と文学を巡る」



津波による流失後、再建された六角堂

本年度の文学散歩は「浜通りの現在と文学を巡る」をテーマに10月3日(水)、4日(木)の両日、主として福島県浜通りを巡り、北茨城にも足を延ばす。1日目は「壇谷雄高記念文学館」を見学、壇谷雄高・島尾敏雄の文学に触れ、「勿来文学歴史館」、関東の松島と言われる五浦海岸、岡倉天心建立の「六角堂」。「五浦美術館」では横山大観・菱田春草・下村観山等日本画を

じっくり鑑賞。雨情の宿として知られるいわき湯本温泉に宿泊。2日目は「野口雨情童謡館」、福島県内唯一の国宝「白水阿弥陀堂」を見て、帰途は内陸を通り「草野心平文学館」「智恵子記念館」を巡る。浜通りは大震災の津波による被災地、加えて原発事故の被災地である。現状はどこまで復興、復旧しつつあるのか宮城県在住者として参加者の目に映ること、文学的刺激も考えられる。会員や一般を問わず多くの参加を期待している。詳しくは同封の募集要項の通り。申し込みは9月14日(金)まで。

研修旅行

参加者募集

「魅惑の台湾5日間」



レトロな街並みが人気の九份

本年度の研修旅行は、10月27日(土)から31日(水)までの日程で、行き先は台湾と決まった。

エバー航空で台湾・台北入りし、2日目に故宮博物館、總統府、中正記念堂、忠烈祠を見学した後、新幹線で台南へ。3日目は台南市内観光。各名所を回り、新たな国際交流の可能性を探るため、台南芸術協会幹部らとの面会も予定されている。4日目は台北を代表する観光地、

龍山寺、九份の街並みなどを巡る。5日目、エバー航空で帰国する日程で、台北・台南の魅力満載の5日間となっている。研修旅行は1970年に会員の親睦を目的にスタートした。当初は国内だったが、93年に行き先を海外に変更。昨年は治安の悪化で国内に戻し、今回、要望もあり再び海外を復活した。詳細は後日送付のチラシを参照してほしい。申し込みの締め切りは9月10日(月)。台湾の名所旧跡を訪ね、芸術事情も垣間見ることができ「お得な旅」。募集は25人と限られており、早めの申し込みをお願いしたい。

平成29年度正味財産増減計算書 [決算]

(平成29年 4 月 1 日～平成30年 3 月31日)

| 科目 | 公益目的事業会計 | | | | | 収益事業等会計 | 法人会計 | 合計 |
|---------------|------------|------------|------------|------------|------------|-----------|------------|------------|
| | 公1 | 公2 | 公3 | 公益共通 | 公益小計 | | | |
| I 一般正味財産増減の部 | | | | | | | | |
| 1. 経常増減の部 | | | | | | | | |
| (1) 経常収益 | | | | | | | | |
| 基本財産運用益 | 0 | 0 | 0 | 1,000 | 1,000 | 0 | 0 | 1,000 |
| 受取入会金 | 0 | 0 | 0 | 980,000 | 980,000 | 0 | 980,000 | 1,960,000 |
| 受取会費 | 0 | 0 | 0 | 12,385,000 | 12,385,000 | 2,650,664 | 7,924,336 | 22,960,000 |
| 事業収益 | 6,611,950 | 116,000 | 720,000 | 0 | 7,447,950 | 806,000 | 0 | 8,253,950 |
| 受取補助金等 | 200,000 | 0 | 250,000 | 0 | 450,000 | 0 | 0 | 450,000 |
| 受取負担金 | 12,690,700 | 0 | 0 | 0 | 12,690,700 | 0 | 0 | 12,690,700 |
| 受取寄附金 | 155,000 | 0 | 0 | 0 | 155,000 | 0 | 0 | 155,000 |
| 雑収益 | 180,000 | 0 | 0 | 11,500 | 191,500 | 0 | 1,499 | 192,999 |
| 経常収益計 | 19,837,650 | 116,000 | 970,000 | 13,377,500 | 34,301,150 | 3,456,664 | 8,905,835 | 46,663,649 |
| (2) 経常費用 | | | | | | | | |
| 事業費 | 28,767,260 | 2,751,081 | 3,653,996 | 130,000 | 35,302,337 | 3,456,664 | 0 | 38,759,001 |
| 管理費 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7,886,009 | 7,886,009 |
| 経常費用計 | 28,767,260 | 2,751,081 | 3,653,996 | 130,000 | 35,302,337 | 3,456,664 | 7,886,009 | 46,645,010 |
| 当期経常増減額 | △8,929,610 | △2,635,081 | △2,683,996 | 13,247,500 | △1,001,187 | 0 | 1,019,826 | 18,639 |
| 2. 経常外増減の部 | | | | | | | | |
| (1) 経常外収益 | | | | | | | | |
| 経常外収益計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| (2) 経常外費用 | | | | | | | | |
| 経常外費用計 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 当期経常外増減額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 他会計振替額 | 9,274,971 | 2,635,081 | 2,709,196 | 13,599,422 | 1,019,826 | 0 | △1,019,826 | 0 |
| 当期一般正味財産増減額 | 345,361 | 0 | 25,200 | △351,922 | 18,639 | 0 | 0 | 18,639 |
| 一般正味財産期首残高 | 682,211 | 0 | 0 | 42,368,688 | 43,050,899 | 14,000 | 0 | 43,064,899 |
| 一般正味財産期末残高 | 1,027,572 | 0 | 25,200 | 42,016,766 | 43,069,538 | 14,000 | 0 | 43,083,538 |
| II 指定正味財産増減の部 | | | | | | | | |
| 一般指定財産への振替額 | 30,000 | 0 | 0 | 0 | 30,000 | 0 | 0 | 30,000 |
| 当期指定正味財産増減額 | △30,000 | 0 | 0 | 0 | △30,000 | 0 | 0 | △30,000 |
| 指定正味財産期首残高 | 160,000 | 0 | 0 | 0 | 160,000 | 0 | 0 | 160,000 |
| 指定正味財産期末残高 | 130,000 | 0 | 0 | 0 | 130,000 | 0 | 0 | 130,000 |
| III 正味財産期末残高 | 1,157,572 | 0 | 25,200 | 0 | 43,199,538 | 14,000 | 0 | 43,213,538 |

| | | |
|-----------------|-----------------|------------------|
| a : 公益目的事業経常費用計 | b : 当年度年間全体経常費用 | 公益目的事業比率 (a / b) |
| 35,302,337 | 46,645,010 | 76% |



「くつろぎの一品」でおもてなし

**5流派、呈茶でおもてなし
茶道部、やきものフェアに協力**

(一財) みやぎ産業交流センター、河北新報社など主催の「第7回全国やきものフェア in みやぎ」が7月12～16日、夢メッセみやぎで開催され、当協会茶道部の5流派が茶道の普及促進を図るため協力した。

全国の主要産地、120の窯元・作家が作品を展示販売。連休を中心に連日、お気に入りの一品を探し求める大勢のやきものファンでにぎわった。

茶器・茶道具の出展も多く、例年同様、くつろぎの一品・茶席コーナーを開設した。大日本茶道学会、表千家、武者小路千家、玉川遠州流、裏千家が協力。呈茶とお菓子でもてなした。

平成 29 年度 事業報告

(1) 宮城県芸術祭の開催【公益目的事業1】 *第54回統一テーマ「結い」

| 事業種別 | 事業名 | 期 日 | 会 場 | 入場者数 | 作品点数・出演者等 |
|--------|----------------|------------------------------------------------------------|-----------------|--------|-------------------------|
| 芸術祭全体 | 開会式 | 9/22 | せんだいメディアテーク5F | 80名 | |
| | オープニングイベント「結い」 | 9/23 | せんだいメディアテーク1F | 650名 | 対応部門：書道・華道・洋楽・邦楽・舞踊 |
| | 表彰式 | 11/14 | ホテルメトロポリタン仙台 | 269名 | |
| 展示関係事業 | 華道展 | 9/22～27 | せんだいメディアテーク5F | 2,716名 | 前期37点・後期37点 |
| | 書道展 | 9/22～27 | せんだいメディアテーク5・6F | 4,345名 | 285点 |
| | 工芸展 | 9/29～10/4 | せんだいメディアテーク5F | 2,457名 | 68点 |
| | 写真展・写真公募展 | 9/29～10/4 | せんだいメディアテーク5F | 2,994名 | 会員展93点・公募展入選97点(応募364点) |
| | 絵画展(公募の部) | 9/29～10/4 | せんだいメディアテーク6F | 2,198名 | 109点 |
| | 彫刻展・彫刻公募展 | 9/29～10/4 | せんだいメディアテーク6F | 2,198名 | 会員展24点・入選3点(応募4点) |
| | 絵画展 | 10/6～11 | せんだいメディアテーク5・6F | 9,578名 | 日本画45点・洋画192点・役員等81点 |
| 演奏関係事業 | 長唄演奏会 | 10/15 | トークネットホール仙台 | 198名 | 26名 |
| | 音楽会 | 10/31 | 日立システムズホール仙台 | 582名 | 会員29名・外部出演5名 |
| 文芸関係事業 | 文学散歩 | 10/4～5 | 岩手県北上・盛岡・奥州市 | - | 参加者31名 |
| | 「宮城県文芸年鑑」発行 | 10/15 | - | - | 750部発行 |
| 茶 会 | 茶会 | 10/8・15・22 | 輪王寺 | 3,719名 | 13流派参加 |
| 人材育成事業 | 第38回音楽コンクール | 予選 2/14 | 日立システムズホール仙台 | 567 | 参加：ピアノ部門：138・ヴァイオリン部門44 |
| | | 本選 3/25 | 日立システムズホール仙台 | 626 | 参加：ピアノ部門：58・ヴァイオリン部門52 |
| | 写真セミナー | 会場：せんだいメディアテーク7F、5回開催(①7/14②8/11③9/15④10/20⑤11/10)、参加者計56名 | | | |

(2) 芸術文化の振興に関する展覧会、講演会、研究会、発表会などの主催又は後援【公益目的事業2】

| 事業種別 | 事業名 | 期 日 | 会 場 | 入場者数 | 作品点数・出演者等 | | | | |
|----------|-----------------------------------------------------------------|-------------|-----------------|--------|----------------------------------------------------------|-------------|-----------|-------|-------|
| 鑑賞機会提供事業 | 第54回宮城県芸術祭 絵画展受賞者作品展 | 12/15～21 | 東京エレクトロンホール宮城 | 918名 | 会員の部40点・公募の部18点 [共催：公益財団法人宮城県文化振興財団] | | | | |
| | 宮城県芸術協会絵画部門 現運営委員等の「現在と過去」Ⅱ期 | 1/30～3/11 | カメイ美術館 | 1,705名 | 58点 [共催：カメイ美術館] | | | | |
| | みやぎミュージックフェスタ 2017 in とみや | 2/25 | 富谷市成田公民館 | 432名 | 本協会出演等会員15名 [共催：富谷市・富谷市教育委員会・公益財団法人宮城県文化振興財団・富谷市芸術協会] | | | | |
| 伝統文化体験事業 | 第21回杜の都大茶会 | 5/27・28 | 勾当台公園 | 8,878名 | 13流派参加 | | | | |
| 人材育成事業 | 県民との美術交流・ギャラリートーク | 10/7 | せんだいメディアテーク5・6F | 91名 | 講師：倉本 信之氏 高橋 誠氏 | | | | |
| | 第4回定禅寺フォトコンテスト | 12/5～12 | 東京エレクトロンホール宮城 | 419名 | 応募112点・入賞9点・入選55点 [共催：公益財団法人宮城県文化振興財団] | | | | |
| | 書道部による県内小中学校への 講師派遣事業 | 期 日 | 学校 | 対象学年 | 担当会員 | 期 日 | 学校 | 対象学年 | 担当会員 |
| | | 11/27 | 大崎市立東大崎小学校 | 3～6年 | 中塚 仁 | 12/12 | 塩竈市立第二中学校 | 1年 | 建部 恭子 |
| 11/29 | | 仙台市立連坊小路小学校 | 3年 | 小日向慶可 | 12/13 | 仙台市立幸町小学校 | 4年 | 後藤 大峰 | |
| 11/30 | | 仙台市立泉松陵小学校 | 1～2年 | 中塚 仁 | 12/13 | 大崎市立田尻小学校 | 3～6年 | 千葉 華紅 | |
| 12/1 | | 仙台市立人來田中学校 | 1～3年 | 関 雀鈴 | 12/15 | 塩竈市立月見ヶ丘小学校 | 5～6年 | 池田 徳雲 | |
| 12/4 | 仙台市立南中山小学校 | 6年 | 阿部 緑泉 | 12/15 | 栗原市立瀬峰中学校 | 1～3年 | 後藤 法明 | | |
| 12/12 | 石巻市立広瀬小学校 | 3年 | 天野 白扇 | 12/15 | 石巻市立和潤小学校 | 3～6年 | 米倉 馨香 | | |
| 後 援 事 業 | 「河北美術展」等、本協会に本年度申請された85件の作品展や演奏会に対し、後援名義の使用許可及び賞交付(賞状や賞品等)を行った。 | | | | | | | | |

(3) 国内及び国外との芸術文化の交流【公益目的事業3】

| 事業種別 | 事業名 | 期 日 | 会 場 | 入場者数 | 作品点数・出演者等 |
|-------------------------|---------------------------|-----|----------|------|-----------------------------------------|
| 東北・北海道芸術文化 団体協議会交流事業 | 東北・北海道交流事業文化講演 | 6/6 | ラ・プラス青い森 | - | 「日本の彫刻 - 近代から現在 -」 講師：塚本 悦雄氏(弘前大学教授) |
| 仙台・大邱国際 芸術交流事業 | 2017宮城県 - 大邱 国際芸術交流演奏会 | 9/5 | 大邱文化芸術会館 | 350名 | 当協会訪問団(役員及び出演者) 15名(訪問日程：9/4～9/7) |

(4) 会員の資質向上のための研修会等の実施及び調査研究並びに出版物の刊行など【他事業】

| 事業種別 | 事業名 | 期 日 | 会 場 | 入場者数 | 備 考 |
|---------|-------------|--------------------------------------------------------------|-------------|------|------------------------------------------|
| 会 員 研 修 | 絵画部スケッチ研修会 | 5/20～21 | 山形県酒田市 | 32名 | |
| | 講演会 | 6/3 | 仙台市福祉プラザ | 132名 | 「文化人としての伊達政宗 - 記録で辿る人間政宗 -」 講師：伊達 宗弘氏 |
| | 書道部研修会 | 9/24 | せんだいメディアテーク | 113名 | 講演会「近現代の書」 講師：高橋 利郎氏 |
| | 第44回研修旅行 | 11/7～9 | 石川県金沢市 | 11名 | |
| 発 行 | 機関紙「はなやま」発行 | 年間4回発行：212号(5/8)・213号(7/31)・214号(10/27)・215号(1/31) 各2,550部発行 | | | |

